

⑤Int.Cl.

E 04 f 13 / 14  
E 04 f 13 / 12

⑥日本分類

86(6) B 323  
86(6) B 322

⑦日本国特許庁

⑧実用新案出願公告

昭49-46761

## 実用新案公報

⑨公告 昭和49年(1974)12月21日

(全3頁)

1

## ④耐火性鍍板

⑩実 順 昭45-93159

⑪出 順 昭45(1970)9月19日

⑫考 案 者 村石治良

名古屋市昭和区天白町大字野並字  
堀池1443の1分譲住宅155  
号

⑬出 願 人 中村合板株式会社

名古屋市港区木場町6

⑭代 理 人 弁理士 水野末明

## 図面の簡単な説明

第1図は実施例の裏面側を示す1部破断斜視図、  
第2図は支持片の1部破断斜視図、第3図は実施  
例の取付状態を示す板壁の1部を示す縦断斜視図。

## 考案の詳細な説明

本考案は家屋の外壁、腰張等に用いられる下見  
用の耐火性鍍板に関するものである。

板の下縁部の羽重ね部分を下側の板の上縁部の  
羽重ね部分の外表面に重合して釘打ちし、順次板  
を斜め外側下方に傾斜させて張合せ板壁を造築す  
る従来の鍍板は、張合せて行く際に、まず板を所  
定の取付位置に支えつつ上縁部を柱又は柱間の胴  
縁に釘打ちして固定しなければならないが、板を  
所定位置に支えつつ釘打ちする作業は長尺サイズ  
の場合支持が1人では行ないにくく、特に取付位  
置が高くなるとこの作業は熟練を要する上、手間  
が掛り鍍板の羽重ね部分に打込んだ釘の頭が板面  
上に露出するので、外観上体裁が悪く、しかも露  
出した釘の頭が風雨に晒されて腐蝕し、水が釘  
に沿って板の内部に浸透して釘打部分の板を腐ら  
せ、釘打部の保持が弛みガタ付きを生じて補修を  
要するようになる欠点がある。また、従来の鍍板  
は難燃性に欠け耐火性に乏しい欠点があつた。

本考案は、上記欠点を除去し、耐火性を附与し  
て燃えにくくし、鍍板の取付け作業を容易にする  
とともに鍍板の下端部を固着する釘を全く不要に

2

し、鍍板の上端部を固着する釘の頭を隠蔽して釘  
頭の露出をなくして板壁の外観を向上するととも  
に、釘の腐蝕によつて生じるガタ付きを防いで耐  
久性を向上することを目的とするものである。

5 次に、本考案の実施例を説明する。

図面は、木毛セメント板の基板に、薄肉の金属  
板を被覆して構成した耐火性鍍板Aを示す。1は  
横長長方形の木毛セメント板の基板で、上端面4  
は板の表面2と約60°の鋭角をなす斜面に形成  
し、板の裏面3の下部には、上端面に平行した斜  
10 状断面の長溝5を長手方向に横通してある。6は  
表面に焼付け塗装を施した薄肉の金属板で、基板  
1の表面と上、下の端面に沿わせて折曲し、上、  
下の両端部を基板の裏面3の上、下端部に折重ね、  
下側端部を基板の長溝5の下側縁に沿わせて基板1  
に被覆しておる。7は基板1とほぼ等長の細長き  
平板状の硬質合成樹脂製支持片で、1方の長辺側  
の両面に抜止め用の爪条8を長手方向に沿つて数  
条突設しており、爪条8を突設した長辺部を基板  
1の長溝5内に圧嵌し爪条で係止すると同時に長  
溝内に塗布したモルタルで接着固化して基板1に  
固定し基板のほぼ全長に亘り、支持片7を基板の  
上端面4に平行して基板の裏面3より斜後下方に  
基板の板厚とほぼ等幅分を突出しておる。

25 本鍍板Aはその取付状態の例として第3図に示  
すように上端部を、外表面の被覆金属板の面上か  
ら釘を打込んで固定して順次鍍板に張合せるもの  
で、基板1の裏面3より突出した支持片7を、柱  
9間に横架した胴縁10に外表面の金属板6を外  
側に向けて上側の羽重ね部分を釘11打ち固定し  
斜外側下方に傾斜して取付けた下側の鍍板Aの上  
30 端面4上に載架し、下方の羽重ね部分を、下側鍍  
板の上側の羽重ね部分の表面上に釘11の頭を覆  
つて重合し、支持片7と鍍板の下側の羽重ね部分  
間に形成した鋭角の隅角凹部を下側鍍板の鋭角上  
35 端部に嵌合係止して、下側鍍板と平行に傾斜した  
上側鍍板の上側羽重ね部分を胴縁10に釘11打  
ち固定して取付け、同様な操作で鍍板Aを順次上

3

方に張合せて表面に塗装加工を施した被覆金属板6を外表面にした鎧状の張合せ板壁を造築する。

なお、本例は木毛セメント板の基板1を用いているが、ハードボード、合板の基板でもよい。又硬質合成樹脂製の支持片7を用いているが、金属板のものを用いてもよい。又、木毛セメント板の基板1に爪条8を突設した支持片7を用いているが、合板の基板の場合は細長き平板状の支持片を用い、基板の長溝内に接着剤を塗布して支持片を圧嵌接着して基板に取付けてもよい。被覆金属板6の左右の両側縁に覆蓋片を屈曲形成して基板1の両木口をも覆蓋するようにしてもよい。

本考案は、鎧板の基板の裏面下部に支持片を突設しておくから、板を張合せて板壁を造築する場合、固定した下側の鎧板の上端面に支持片を載架した鎧板を所定の取付位置に支持することができ従来の鎧板のように最初所定の取付位置に支えつつ釘打ちする熟練した作業を要せず、1人で簡単に手早く取付けることができる。また、鎧板の表面に対し鋭角に傾斜した上端面と平行に支持片を突設しておくから、支持片と鎧板の下端部間の鋭

4

角な隅角凹部が下側の鎧板の鋭角な上端部に密に係合し、鎧板の下端部を釘打ちして下側の鎧板の上端部上に固定する必要があるから、釘を省略し鎧板の下端部を固定する釘打ちの手間が省けて作業が簡素化でき、現場での鎧板取付作業が非常に簡単になる。さらに鎧板の下端部で下側の鎧板の上端部を胴縁等に固定する釘の頭を隠蔽できるから、固着用の釘の頭が板面外部に露出せず、釘頭の腐蝕を防止して板壁の外観を向上するとともに板壁の早期破損を防止できる。

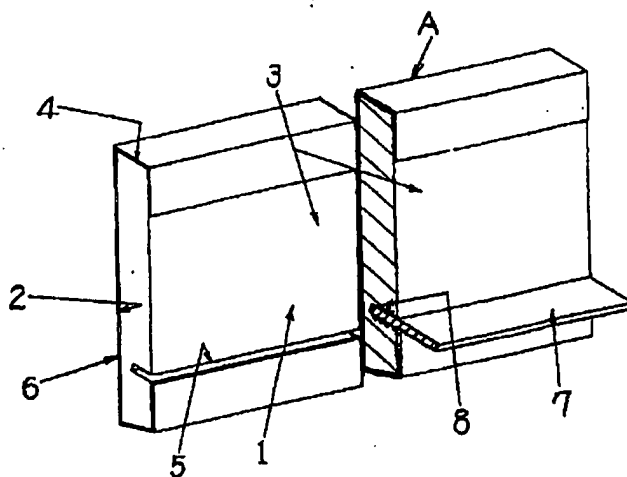
また、基板の表面側は不燃性の金属板で覆われておるから、板壁構成時に外部から吹き付ける火炎に対しては耐火性があり、耐火性鎧板として使用できる。

#### 15 ⑦実用新案登録請求の範囲

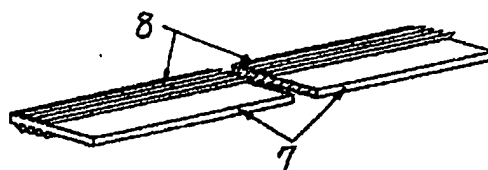
基板の上端面を表面に対し鋭角をなす斜面に形成し、薄肉の金属板を基板の表面及び上、下端面に沿わせ裏面の上、下端部に折重ねて基板に被覆し、基板の裏面下部に支持片を基板の上端斜面に平行して突設した耐火性鎧板。

20

第1図



第2図



第3図

